

長期実務実習によって 指導薬剤師側に生じた内面的変化

第2報

森川厚子 大久保敦子 小林きぬ子 及川肇美 中村光子
(一社) 茅ヶ崎寒川薬剤師会 実務実習委員会

研究の概要・目的

薬学部実務実習が2010年から始まり、その5年後に茅ヶ崎寒川薬剤師会実務実習委員会に所属する認定実務実習指導薬剤師を対象にアンケート調査を実施し、「長期実務実習によって指導薬剤師側に生じた内面的変化」の調査結果を、当学術大会で発表した。それから11年経った現在、2026年に同様な調査を実施し、実務実習が指導薬剤師に及ぼす影響の変化、更に現在の課題を、指導薬剤師側から検討した。

方法

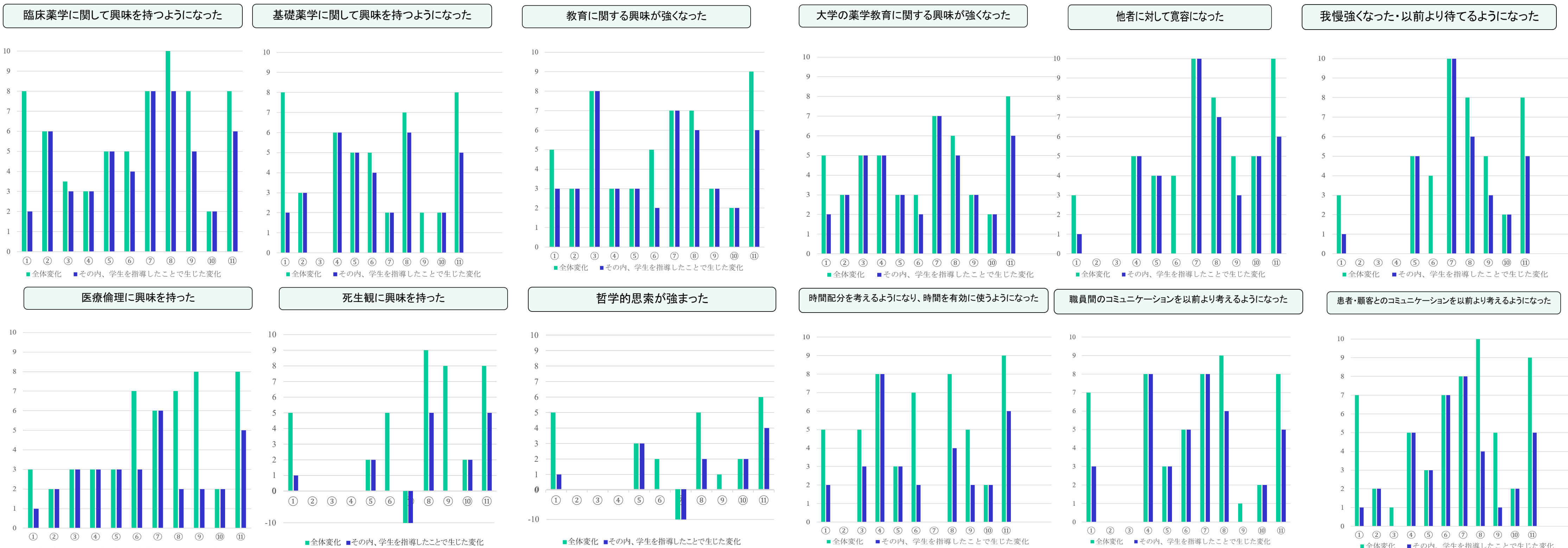
11年前と同様に、現在の実務実習委員会の認定実務実習指導薬剤師を対象にアンケート調査し、実務実習を行ったことによる指導薬剤師自身の変化、その内、学生を指導したことによって起きた変化を数値で表現し、11年前の調査と比較した。更に追加項目を作り、実務実習に伴う実情を調査し、現在の課題や問題点を検討した。

結果

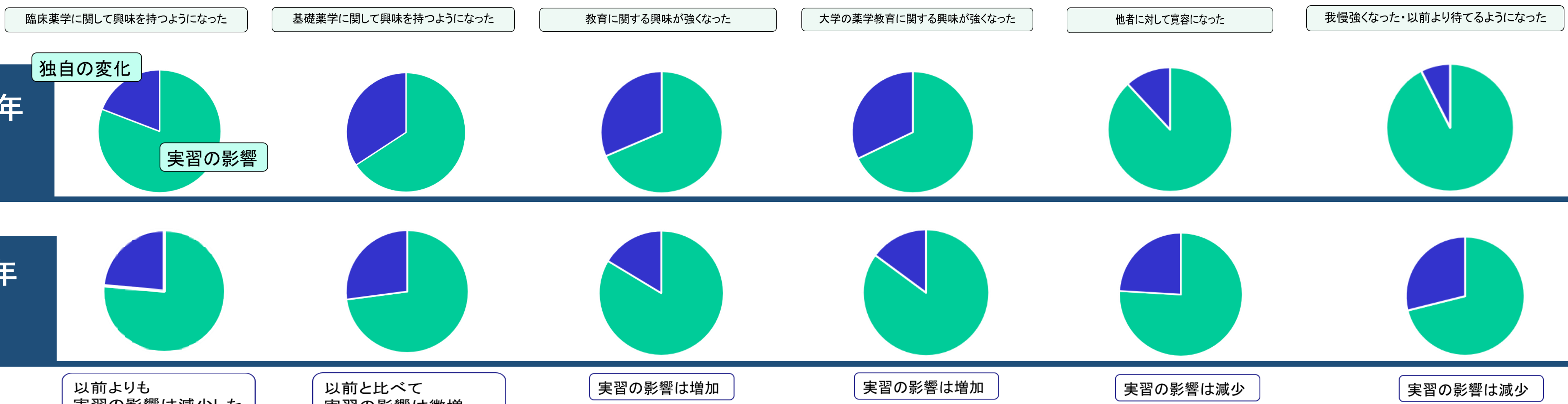
【第1部】 今までの学生で、一番早く服薬指導を開始した時期 2015年 1日目1人 2週目3人 4週目3人 5週目1人 6週目1人 7週目1人 (回答者10名)
2026年 1日目3人 2日目1人 7日目1人 1週目2人 2週目3人 4週目1人 (回答者11名)

【第2部】 長期実務実習を行う前と、現在の状態を思い浮かべ、その前後の自分自身の変化と、その変化に対して学生実習がどの程度寄与しているかを数直線上で答えて下さい。
自分自身の変化 -10 -9 -8 -7 -6 -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10
その内 学生を受け持ったことによる変化 -10 -9 -8 -7 -6 -5 -4 -3 -2 -1 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

今回(2026年)のアンケート結果(11名)



2015年と2026年との比較



記述式アンケート結果(2026年)

第3部・第4部は2026年のみの調査結果

【第3部】(2026年)

<ハラスメント対応>

・大学と指導薬剤師と認識のずれがある。・言葉の選び方、表情の作り方に苦労した。・自分の感情を抑えている。・伝え方を工夫している。

【第4部】(2026年)

①各大学の担当教員について

・問題のある学生について事前に通知され、学生の理解力のなさを補えた。
・問題が起きた時に、解決に向けた話し合いの場に参加してくれた。
・担当教員が薬剤師業務を知らず、しかも身勝手な学生だったので困った。
・問題が起こりそうな学生の報告をしても対応がなく困った。

②実習でトラブルが発生した時、どこに相談しますか？

・最初に大学に相談し、深刻ならば地域の実務実習委員長にも連絡する。
・他の実務実習指導薬剤師・薬剤師会

③学生の資質について

・言葉遣いに問題があり、敬語がうまく使えない学生が多い。
・体力が極端に無い学生がおり、立ってられず、改善しなかった。
・日報を1か月間書かない学生がいた。・服薬指導をしない学生がいた。
・人間に興味がない学生が増えている。

④実務実習を始めて、自分自身、成長したところがあると思いますか？

・忍耐強くなった。(学生の成長をゆっくり待てるようになった)
・知っていることも一旦調べ、知識を再確認するようになった。
・基礎を振り返り、自分も向上している。職場の緊張感を保てる。
・精神面が大きく成長し、忍耐力もついた。
・一人一人に合わせて実習を進めていくことから、人と向き合うことが大切だと学んだ。

⑤11年前と比べ実習に取り組む姿勢等、どのように変わったでしょうか

・基本的な生活力をまず整えて、同時に臨床を勉強していただいているが、以前よりこの見通しを立てやすくなった。
・以前は、知識を学生に教えることが中心だったが、今は、知識や手技の習得の手助けを心掛け、経験、体験させる実習に重点を置いている。
・最近では年齢差を感じ、実習生の気持ちを理解しにくくなった。
・自分自身はあまり変わっていないが、学生は思いを表現することが苦手になったと思う。
・以前の評価方法では客観的に評価できたが、現在は指導薬剤師の主観的な評価になりやすいと思う。

考察

* 今までの学生で、一番早く服薬指導を開始した時期は、2015年には2~4週目が多く、2026年には1~2週目が多かった。主にコアカリ変更の影響だったが、教え方に習熟したとも考えられる。

* 「基礎薬学・臨床薬学・大学教育への興味」は今も保たれている。

* 「教育に対する興味」が実習することで増加したと感じている薬剤師は増えており、教育に対する興味は安定的に維持されている。

* 「大学の薬学教育に対する興味」への影響は微増しており、この間、実習に否定的な薬剤師が実習をやめていることも考えあわせ、大学教育への矜持が保たれていると考えられる。

* 「他者に対する寛容性」に対する影響は、微増しており、実習の影響で寛容性が継続的に高まっていることが分かった。

* 「我慢強くなり、待てること」への実習の影響は減少しており、実習初期にはかなり忍耐が必要だと感じていたようだ。

* 「医療倫理への興味」に対する実習の影響は以前と変わらなかった。

* 「哲学的思索」は、以前よりも実習の影響が減少していた。2015年には初心の覇気や迷いがあり、2026年には通常業務になっていて、よくも悪くも慣れが生じているのであろう。

長期実務実習開始直後、私たちは様々な考えを持ち、試行錯誤を重ねていたが、現在は安定的に実習を進められている。項目により異なるが、11年前も今回も、薬剤師側も実習の影響を受けていることが分かった。11年前と現在との差は大きくはないが、長年教える立場に立つことで、より深く学ぼうとする意識や責任感が生まれている。今も実習に関する問題点は多いが、実務実習で私たち指導薬剤師自身も成長していることを自覚することによって、自分自身の状態を俯瞰し、心理的に自己を認識することができる。

我々は、学生を指導して、様々な困難を乗り越えてきた、更に薬剤師会を通して相談しやすい環境が整えられていることもあり、薬学教育に対する矜持が維持できていると思われる。

第59回日本薬剤師会学術大会

利益相反の開示

演者名: 森川厚子

私は今回の演題に関連して、開示すべき利益相反はありません。